

最新！宗教情報 ////////////////////////////////////// No. 1

◎3分でわかる、聖☆おにいさん

【TechInsight, 3/22/2009】無事世紀末を乗り越えた「ブッダ」と「イエス」。働きづめだった自分たちへのご褒美とばかりに長期休暇を取ってアパートをシェアし、東京は立川での生活を満喫している。浅草へ観光に出かけ、秋葉原でショッピングをし、お祭りやクリスマスを楽しむ2人。それは本当にありふれた日々なのだが、ブッダとイエスというだけで本人たちにも予想のつかない愉快的ことが起こる。

この作品におけるブッダとイエスとはただの記号やあだ名ではなく、あのブッダとあのイエスのこと。ブッダは少しでも徳の高いことを行ったり言ったりすれば後光が差すし、イエスは感情が高ぶると水をワインに、石をパンに変える“奇跡”を起こす。当たり前のようにブッダはブッダであり、イエスはイエスなのである。

漫画ならではのキャラクタライズも絶妙。ブッダは儉約家であり家事が得意なしっかり者として、一方のイエスはブログに精を出しコスプレに興味を持つ今時の若者風に描かれている。これが意外としつくりきており、現代社会にあの2人がいたらこんな感じだろうか、などと馬鹿げたことを考えてしまうほど不思議なリアリティがあるのだ。

この作品は、国民のほとんどが無宗教であろうこの国でだからこそ成功した漫画である。これが例えば他の国で、他の宗教の聖人を登場させていたら大問題となっていたであろう。宗教に頓着しないと同時にMANGA 大国としても世界に名を馳せる日本ならではの名作である。

ありきたりな毎日を、会話を中心に描き出しているこの作品は、雰囲気だけなら「THE3名様」に近い。しかしそれよりもずっと毒がなく、多くの人に受け入れられる仕上がりとなっている。宗教モノと勘違いして毛嫌いするのは早合点だ。

とはいえ、この作品は仏教やキリスト教の有名なエピソードをある程度知っていた方が断然楽しめる。涅槃や聖痕といったキーワードを押さえて置くだけでもまったく違うので、興味をもったなら一度調べてみるのもいいだろう。聖人であるはずのブッダとイエスがぐっと身近に感じられるに違いない。

明日23日はコミックス最新刊である3巻の発売日。大人気となっている作品だが、まだたったの3巻なのである。今ならば大人買いをするにしても金額も重量も大したことはない。早めの決断が吉だ。

■ <http://japan.techinsight.jp/2009/03/miura200903221046.html>

◎10万人以上が「洗礼破棄証明書」をダウンロード、英国

【AFP, 3/31/2009】英国では、キリスト教の信仰を捨てるため、ここ最近で10万人以上がインターネット上で「洗礼破棄証明書」をダウンロードしているという。

この運動はNational Secular Society (NSS) という団体によって立ち上げられたもので、ロンドン (London) など各地で行われている無神論キャンペーンに続くものだという。一連の無神論キャンペーンでは、キリスト教の一連の警告メッセージに対抗して、ロンドン市内のバスの側面に「神は多分いない」との広告が出されている。NSS関係者は、「われわれは現在、羊皮紙に書かれた証明書を発行しているが、これまでに1部3ポンド (約400円) で1500枚が売れた」と語る。

英国国教会の広報担当者はAFPに対し、「洗礼を破棄することは、個人と神との問題」だとし、同教会の公式な立場としては洗礼の記録を修正することはないとした。

■ <http://www.afpbb.com/article/life-culture/religion/2588070/3983108>

エコロジーとキリスト教

1. エコロジーを取り巻く問題群
2. キリスト教の自然観の変遷
3. 「エコロジーの神学」を目指して

1. エコロジーを取り巻く問題群

2

エコロジー (ecology) とは何か？

- もともとは生物とそれを取り巻く環境との関係を研究する生物学の一分野。生態学。
- ドイツの動物学者E・ヘッケルが1866年に著作の中で用いたのが最初。
 - オイコス(家)+ロゴス[ギリシア語]
 - Cf. 経済学(economy)←オイコス+ノモス
- 今日では「生態学」にとどまらず、広く「環境保護運動」という意味で用いられている。

3

なぜエコロジーを問うのか？

- グローバルな課題として
 - 地球温暖化、オゾン・ホール拡大、人工化学物質の拡散、希少生物の絶滅、等
- 「地球に優しく」するため？

4

わたしたちの自然理解

- 日本の文化は自然を大切にしてきたのか。
- 現代における自然理解の手がかりとして
 - 宮崎アニメ
 - 「風の谷のナウシカ」
 - 「もののけ姫」
 - 「千と千尋の神隠し」
 - レオ・バズカーリア『葉っぱのフレディ』
 - 生命の全体性・循環性



5

今日の日本における環境意識

- 「多神教主義」の隆盛
 - 多神教・アニミズムに根ざした自然理解が、環境問題を解決するという主張
 - 例: 梅原猛の「森の思想」
 - 多神教と一神教の排他的二元論
 - 自然と協調的な多神教と自然に敵対的な一神教という安直な対比
- 「京都議定書」の目標達成は絶望的？
 - 1997年採択、2005年発効。
 - 温室効果ガスを1990年比で、2008年～2012年に一定数値(日本6%、米7%、EU8%)を削減することを義務づけている。

6

2. キリスト教の自然観の変遷

7

キリスト教の伝統的な自然観

1. 自然理解からアニミズム的要素を排除。
 - **アウグスティヌス**「動物を殺し、植物を滅ぼすのを差し控えることは迷信の極みだと、キリスト自身が教えている。なぜなら、われわれと獣と木のあいだには何ら共通する権利がないものと判断したので、かれは悪霊どもを豚の群の中に入り込ませたのであり、また実を結ばないでいる木を呪って枯らしたのである。」
2. 自然を支配すべき対象と見なす。

8

「自然」に対する二つの見方

- 道徳的指標としての「自然」
 - 「自然法」(natural law)としての自然
- 野蛮としての「自然」
 - 「黒人のもとでの奴隷制度のありかたからみちびきだせる、わたしたちにとって興味のある唯一の教訓は、自然状態というものが絶対の徹底した**不法の状態**である、という理念の正しさです」(ヘーゲル『歴史哲学講義』)
 - 自然は人間によって**支配**されるべき対象。

9

環境問題の先駆者たち

- 神の信託管理人思想
 - ウォルター・C・ラウダーミルク(1888-1974)
 - 第十一戒「汝、聖なる大地を、忠実なる僕(steward)として神より相続し、世代を次いで、その資源と生み出す力を守るべし」。
- 生命/生態系中心主義
 - 生命あるいは生態系に価値を置く。人間の価値は相対化される。
 - アルベルト・シュヴァイツァー(1875-1965)
 - 生命中心主義
 - ディープ・エコロジー
 - 1972年にアルネ・ネス(ノルウェー)によって提唱
 - 生態系中心主義
- 動物権主義
 - 「動物の解放」運動

10

キリスト教の生態学的責任

- リン・ホワイト論争
 - 1967年、リン・ホワイト・ジュニア「今日の生態学的危機の歴史的源泉」(*Science*誌)
 - 生態学的危機の原因は、キリスト教の人間観・世界観にあると指摘した。

11

リン・ホワイトの主張(1)

「物理的創造のうちの一つの項目をとっても、それは人間のために仕えるという以外の目的をもっていない。そして人間の身体は粘土から作られたけれども、人間は単なる自然の一部ではない。人間は**神の像**を象って作られているのである。」

→ [創世記1:27-28](#)